

第2回深川北部 報告書

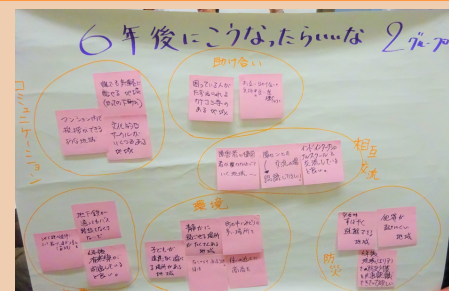
まちづくり 話し合い ひろば

2023. 7. 26

千石地区集会所

13:30~15:30

参加者 18名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

あつまる！ つながる！ やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



自分に引き寄せて「うまくいく計画」とは何なのだろうと考えてメモを取っていた。

1点目、計画は変化を起こすものなので、まずは自分の限界を受け入れること。「今のやり方がこの先うまくいかないと思ったタイミングで立てる。」2点目、できないと嫌になってしまうため、無理な計画、壮大なビジョンを描かず、身の丈の、「できることを積み上げていく計画」が続いていくもの。3点目、6年後は長い。計画はあくまでもその時の情報に基づいて立てたものなので、先ばかり心配しても見えない。

計画はあくまで今ある情報の中で立てた、今の時点での考えに過ぎないので、不確定な要素もしっかりその時その時に受け止めて、柔軟に動いていける場・関係ができることが大事なことです。一步一步楽しんで参加して動いていかないといけない。楽しんで進んでいると人を呼び込み、一步一步楽しんで歩いていった先に6年後の未来ができていくと思う

第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうなったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。

ワークショップ

6年後こうなったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

- ・全ての区民が安心安全に暮らせる地域
- ・つながっている地域
- ・障害の有無に関係なく、生活支援がある地域
- ・障害者も地域で生活できる環境がある地域
- ・災害に強い地域
- ・人々がお互いを尊重出来る地域
- ・お互い助け合える地域
- ・若い方が町会に楽しく参加できる地域
- ・かつての下町のような誰でも気軽に話せる地域
- ・外国の方と交流できる地域
- ・子どもが遠慮なく遊べる場所がある地域
- ・静かに過ごせる場所がたくさんある地域
- ・町の中に緑が多い地域
- ・誰もが災害時すばやく避難できる地域
- ・住民同士がつながっていける地域
- ・全国から共生社会のモデルと言われる地域
- ・新住民が地域とスッと溶け込める仕組みがある地域
- ・互いに尊重される地域
- ・挨拶を進んで行う地域
- ・世代を超えてコミュニケーションが出来る地域

自分・地域・団体で できること 一部抜粋

- ・サロンを開いている。参加者を増やし高齢者のつながりを広げていく
- ・町内パトロール
- ・地域の災害発生時に会社の施設の一部開放
- ・一人暮らしの高齢者・障害者が多いため、災害時は安否確認が必要。行政とサービス事業所で連携していく
- ・お互い助け合える地域ができるよう、ボランティア活動を広げていく
- ・自ら挨拶してみる
- ・催し物への積極的な参加
- ・町の人が交流できる町会会館の建設を働きかける
- ・交流やイベントへの参加
- ・障害者施設との交流
- ・障害者施設の利用者が買い物代行し地域活動者となる
- ・地域防災ボランティアに参加
- ・誰かの役に立ちたい
- ・イベントのお手伝いをする
- ・まずは自分の周りの方々に親切に接する
- ・障害のある方と市民の方との接点を作っていく、相互理解を図る
- ・障害者と大家さん、不動産屋さんとのつながりを作っていく
- ・防災の危険を叫び続ける
- ・運転できるので近所の送迎をする



日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分でできること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になったのではないのでしょうか。